

はじめに



長崎大学理事・副学長
調 漸
(取組責任者・本部委員会委員長)

長崎県に於いて、文部科学省GPとして「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」事業が長崎県立大学・長崎国際大学と本学の参画で成功裏に行われたことは記憶に新しい。

今回、この事業の発展型として「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」が企画された。先の取り組みは、薬学と看護学の協働・共修を追求したことで、極めて新鮮であり、魅力的であった。その発展型として産声をあげた本事業は、4自治体・12職能団体が結集して作り上げる協働・共修である。

人は病むと医療現場で「患者」と呼ばれ、疾病を抱えて生活に戻ると福祉の現場で「利用者」や「クライアント」と呼ばれる。そこには異なる理論や経験に生まれ、異なる視点と技術でこれらの人々に関わる専門職達がいる。様々な分野の学生達がこのプロジェクトを通して異なるプロフェッショナル達と交流を深め、病める人達のために更なる学びの高みを目指すことを望みます。